



目次

- 第一編 海國思想と富強との関係と論を
第二編 歴史上より日本の海國思想を論を
第三編 地理上より日本の海國思想を論を
第四編 社會上より日本の海國思想を論を
第五編 海國思想養成の最良策と教育に對する論を
第六編 教育上より海國思想を養成する方法を論を
第七編 結語

教育上より海國思想を養成する策



教育十年海國思想と養育の意義

日本海軍の発展

第一編

海軍の発展と富強との関係

西羅巴の西北大馬洋の東端に一島あり其地勢は三犬嶋より成り全面積を二万四千方里人口三六百万に過ぎず而も宇内之最富強を以て目せしむ大洲上最も富強を有する四季を備へ大陽其版圖内に没する事無し之を英吉利と云ふ亞細亞の東南太平洋の西端に亦一嶋あり其地勢は五犬嶋より成り全面積二万五千方里人口四千万に上り之を英吉利に比し之は倍大なり且つ其氣候溫和土肥汝等とて遠く彼に勝る者を我日本國と爲る夫れ二國が大陸を離れて環海の島たる天然の地勢より面積人口粗に相似て諸般の事情は我寧ろ彼に優り而して其の富強の實力を比較せば我の彼に及ばざると謂はるる差あり其の差處を知るは尤に出入額





海陸軍費及び輸出入額の比較を示すべし

日本 (明治廿五年)	輸 入		輸 出		輸出入差額
	陸軍費	海軍費	陸軍費	海軍費	
英吉利(明治廿五年)	二〇四、四二八、七九〇	一、五二九、九二五、九〇〇	三、六二二、八二〇	一、四二二、四九四、七〇〇	
本邦に於けるもの、我々の輸出するもの、英吉利の二十五分の一に過ぎぬ。而して其差出は英一鎊を我々五圓に改算するものなり。若し之を方々の價格により、英一鎊を我々六圓三十銭に改算せば、我々の三十分の一に上るものなり。凡の二表も亦同一の比例なり。					

日本 (明治廿五年)	陸軍費	海軍費
英吉利(明治廿五年)	二〇四、四二八、七九〇	一、五二九、九二五、九〇〇
またより見ると、我々の輸入も英吉利に比し僅に五分の一に過ぎぬ。		

日本 (明治廿五年)	陸軍費	海軍費
英吉利(明治廿五年)	二〇四、四二八、七九〇	一、五二九、九二五、九〇〇
本邦に於けるもの、我々の輸入も英吉利に比し僅に五分の一に過ぎぬ。		

嗚呼我々同一面積同一人口且つ同一地位を有するものなり。而して其の間に於ける富強弱の差遠く大なるものなり。抑も何の故ぞ。唯ど國民が四圍の海洋を利用するものと否とに因り別なり。一を以て之を蔽ひ、國民に海國思想の富むと否とに因り然るなり。

今夫と英國が其の富強の源を黒子の地と云ふ。能く守内り最大富強國と云ふ。其の所以は其の海洋を利用する大洲上列の所に植民を其の植民地より得る所の利益を以て本邦の兵備を整へて、全世界を貿易の場と爲し、自其に收めて其霸權を握り、遂に東亞各處に往來し航



運通高、利益を獲る。一旦事あるに其の義故ある所の海軍を派遣する
以鐵封港の長技を逞く、之に因りて他國を圍ふの自國に利益多し安
に英國の唯一の策あり、故に英は富強の根本は海軍の整備と植民の普
及と貿易の旺盛とにあり、而して此二者は盡く其人航海に當るもの
結果に、人簡多きより海國思想の發表は外なるものなり。

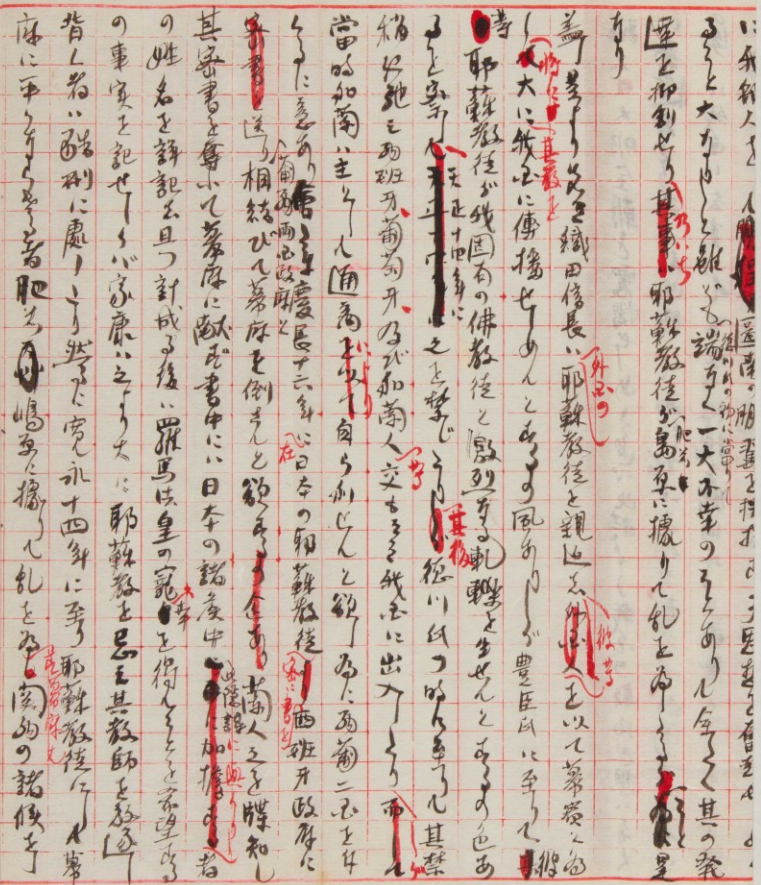
海國思想の隆盛に因り、其國の富強を致さるるは、唯一英國の如きなり。
又古來各國の歴史を考へると、其富強の要因は概して海國思想の隆盛
に伴ふを常とす。上古に於て最も富強を以て稱せしは、海のほとけと稱せ
しとす。そのことには、其然りたるものも主として海運に
因り、植民通商と事とを以て因る。また次はハカリーセービに、其
之に次ぐハ希臘なり。爾後羅馬の強大、西班牙葡萄牙の富強、或は和蘭の
強盛、皆に雄視を英の世に覇をなめさ、盡く航海の隆盛に由る
ものなり。

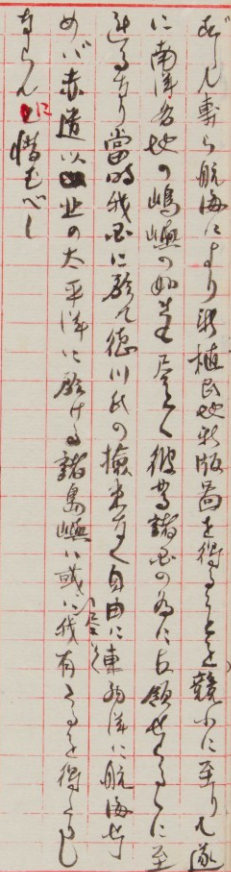
第二編

第一章 明以前の海運の隆盛

第一節

我邦人の航海思想、古來今日の如く沮喪し振るをり。其の故は、
いづれより史を考へると、神功皇后の三韓を征終り、以後威武無細
亞大陸の東端に振る三韓、南倭、北胡、前後相尋、朝貢を絶つるを得ず。
て、其の振るは直ぐに師を蒙り、人征服を航海を振るものとす。平也と
す。如く應神の朝に、二つは新羅を伐ち、征の朝に、一つは新
羅を伐ち、二つは百濟を征、欽明の朝に、二つは新羅を伐ち、一つは
百濟を伐ち、推古の朝に、一つは新羅を討ち、舒明天の朝に、一つは新
羅を討ち、兵を出し、克服せしむ。無く絶域を征する。其の如く
海運を振る。其の如く、其後天智の朝に至り、倭寇を征し、
天智の朝に、倭寇の亂を平らぎ、奈良の朝に、文化は多く、唐制に倣
ひ、其の如く、勉め勵む。文藝は流し、國威振る。武臣は東征の征服を事





嘉永二年米船浦智た
下人以來俄々に長夜の
懶眠を撰りて外に航行

の事日に月に繁を加へ殊に其後蘇美運河の開闢せしめて延露也の
程大に短縮せしむより東海往來の増加ありと見あはしく以て今
日の^{現狀}に至りたり而して更に今後の形勢を考へれば殊に航海の戦ふ
に感あるやざる可らざるものあり何んが露土分起工せる為地利垂の
大鐵道に一人設工一南北兩岸なる尼加拉運河の開通せむ
欧羅巴と東洋諸さう往來ハ陸上及び水運鐵道より南御坂の
出で日本海を航して我土を経文那^{支那}に南至る或は西本平
有國^{國境}に延露也と昔は東方の諸州といひ皆尼加拉運河を通ずた
太平洋を経て東方亜細亞に往來するに過ぎば我土に實に其航路の衝に
當らざるべからざらん而して外人の我土に寄るに我土を通過する
ものと^{強盜}強盗者との併ふて我土人を彼等諸邦に往來する者と繋ぐべき
るを得ぬ況又吾人が互に後編に於て社会齊進の上より論ずるが如く
我土は今農畜業のみより將また商業等に耽ることをいつか明瞭にありて而





往來し航運通商の利益と有る一旦事あるに其の養成する所の海
運を洲達も攻戦封港の長技を逞く之に因りて他國を困り自國
に利を呈し實に英國の唯一の策なり故に英國富強の根原は海運の整備
と植民の蕃及と貿易の旺盛とあり而して此二者は盡く其基礎と海運
の隆盛に在るものとす

海運の隆盛に因りて其國の富強と致るものなり英國の之然るにあり
は古來名國の歴史に考ふに其富強の原因は概して海運の隆盛に伴
小を常とし上に於て是も富強とて稱せし海運の母と稱せしと
この二つにこれやに其然りしものも主として海運に依り
植民通商と事と云ふに因る之に次ぐに海運に依りて富強
次に海運の隆盛に因りて其國の富強と致るものなり英國の之然るにあり
は古來名國の歴史に考ふに其富強の原因は概して海運の隆盛に伴
小を常とし上に於て是も富強とて稱せし海運の母と稱せしと
この二つにこれやに其然りしものも主として海運に依り
植民通商と事と云ふに因る之に次ぐに海運に依りて富強

抑も航海の事戦時に海軍を以て攻戦防禦封港捕拿等に用ひ平時
にハ商船候舟を以て貿易植民便業修交等に用ひ或更に海軍を利
用して偵察警備練習測量若くは他の新地の探検等に用ひ或は植
民貿易便業若くは保護を以て敵海賊難破膠汝等の災厄を救ふに用
ひ之によりて國利を増進するを以て海運の隆盛と云ふものとす
弱の密接なる關係を有するものと知るべきなり
之を以て時世列國の形勢に考ふるに各國ともに皆意を海運に注ぐ
る者無く殊に近來人智の進歩に伴ひ航力的野望の競争を以て國の興
亡を決するを止め難識的貿易の競争を以て國運の隆替を決せんと欲
す而して貿易の盛衰は最も海運の振否に關するを悟り海軍を振
張る航運を振起し植民移住を以て國運を廣め修交立市を以て貿易を盛
せんと力む英吉利佛蘭西獨逸等の各國が近來頻りに東方亞細亞に屬
地を求め南洋諸島の植民に汲々たるを見るも知るべし而して露西亞

8 9 **30** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **40** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **50** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **60** 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **70** 1 2



其二

日本の地位は島々海に亘るに在るを多うに考へ

我々の地位 東經一六度より西經一二度まであり 緯一七度より北緯一八度まであり

此度の間に在る其の島々温帯に在り 地味は極めて肥沃なり 其の全

體は **二** 四 六 八 十 十二 十四 十六 十八 二十 二十二 二十四 二十六 二十八 三十 三十二 三十四 三十六 三十八 四十 四十二 四十四 四十六 四十八 五十 五十二 五十四 五十六 五十八 六十 六十二 六十四 六十六 六十八 七十 七十二 七十四 七十六 七十八 八十 八十二 八十四 八十六 八十八 九十 九十二 九十四 九十六 九十八 一百

の島々の小島より成り 四面は盡く海に以て圍に陸に **一** 陸地は極小なり 其の全

て水には無數の海産に富む **二** 生糸や茶や米穀石炭等を産する 其の全

體の海産物は多し **三** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **四** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **五** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **六** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **七** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **八** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **九** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十一** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十二** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十三** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十四** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十五** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十六** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十七** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

て **十八** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全

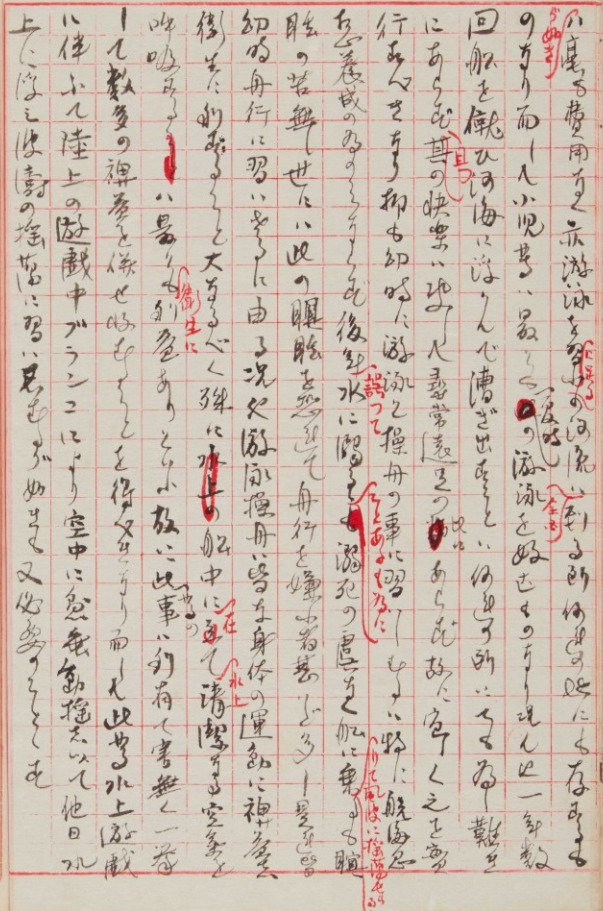
て **十九** 其の全體は新出せる玉の如く 其の全





この目的より言へば自國の内にも此海邊拓殖の如き内地の人口を
放散するに適否と雖も此事は國を海外に伸ばしめり目的に適否を
又人情の常なりと直捷に得べき利益の下にに纏ひ就くも眼先の不利
を解き去り永遠の利を占めんと欲する者稀なり去るは往來本國と
歸りし希疎を必録に計る者多し其海道に渡航し往來の利を圖る
習ふる而して國利を起せんは先づ人情の趨き易き地に誘ひ之を
人語淺く曉るに御しむべき最も良策なり況んや吾人人口の増加
に伴ひ外國移住を希望する者自然に増加あり必然に於て此東海外
移住論の漸々盛んするを以て其の人心の傾向ある所を察せざる可
り

國民に海外移住の事を勧誘するに是れ我國が民福増進のためには頗る
切實なる現象あり而して此の案を國と獎勵を且つ其の志願を奨励せ
しもの為人に不利の地と去る有りの地に就て國家は遊手坐食の後を驅
て外に出でし縱りに御しむべき以て其の移る所の利益を内り收む
加之我々人の移住に利ありは我國產の販路と擴張あることと得る
處に其移住に利ありは我國の勢力を有するに至るは國權を強國
利を達せしむる絶好結果と稱へざる可し然り而して此の移住出航と堅
んずるものあるは勿論其海運と擴張と我國の船所を生じしめ
の故に日本海運を振興しむる船舶の定額増多も亦無き可らず
し然るに日本海運振興に往々之に沿ひ上りし階上と撤去せしむる
の要ありを得るは移住獎勵の階上ありとあり



學問
 車は既に卒業し、七曲門の学科に修むべき者あり、又海軍学校為學士校
 後修學校者ハ、海軍士官校ナリ、然るを修むハ海軍水兵ニ修められ
 七曲門の學科に修むことと心知れし多くハ實業に就くと修め其業成る者ハ
 學科に修むことと心知れし多くハ實業に就くと修め其業成る者ハ
 官吏希望者代名人ニ被着岸人ハ政治官吏者となり其業成る者ハ
 ハ壯士となり破落となり或ハ富饒と成り或ハ樞密分卿と成り或
 に至る是等四等者其法を得ざるに慕つくなり而し此等より吾等相
 應められ政治律師經濟の三向定張るハ新學に接するハ畢竟數年
 を要ス此等學を修めざる者其を稱するハ奴才位と見る者云と見
 ても自ら又之に倣ふと欲しと云う而し彼等自角より多く是
 等の官吏となり代名人となり著述出版記者と爲る者亦多し生計を
 爲る者も多し我輩之と爲る者少しと彼の地位に勝る彼の學問

とあり此等の方を要ねる者も増えぬに須く海軍省といふ
私立造船所と相併し造船廠(字土)を雇取らざるを得ず

已白の蝦夷に賣た我水産を再び天興の福田に
 賣るに賣た我水産物を返却せよと爲す大顧客あり然れども我水産業は
 上振つてし常に海軍擴張の大利を為す人の多かりきなり是眼を以て
 する如敷者の需要は供ひなくと欲し此等玉利を悉く得んより大り
 のよりしむ又海軍士士の志氣を養成せんものも此にあり況んや此水
 産を極と爲し陳董の債利を封定せしめ而して遠洋漁業を擴張し七
 航海を急と練り一舟に八、十人の近縁民衆を宿廊し七亦惣我帝國の利
 便と爲さん換獲の利と貿易の利とを外に航海界との發達によりて東亞
 沿岸の關係となりたりん玉利を擴張せんとせんと欲せざる者

海軍の兵學校を設け、水兵の質數を増加し、以て金銀義勇の精神を
増加せしむ。又海軍を主として、陸軍を輔へ、其意は海
軍擴張に在り、故に海上の防禦は、海軍の専らと爲す。海軍
士官訓練のため、遠洋航行船を、外に出航せしむ。其船中、高等學校
といふ船舶學校の生徒を養成せしめ、以て海軍を益々強きものとす。
此等の目的より、畢竟海軍の目的は、五防遂行の外に、南方を他國と保護
するの大責任を負ひ、南方の此の方面の勢力を、徹底して潰滅し、海軍を主として、
最大根本とする。以て海軍も亦之を教育家の眼中より、陸軍よりも、第一
とし、否や鮮惡陶の隆に於て、將來奮つて海軍に力を入れんと欲せしむ。云

海軍を主として、陸軍を輔へ、其意は海軍の専らと爲す。

基礎

けつ後のみちを其旅々々々古来別々の分岐を主因とする

